

ほほえみ 第34号



暑い8月も過ぎ、9月となってめっきり涼しくなってきました。盛岡では一年のなかでも良い季節ですが、ほほえみ読者の皆様は、いかがお過ごしでしょうか。もう9月となるとは、時間はあっという間に過ぎていきますね。6月には、スーパームーンが見られましたが、今年の中秋の名月は9月19日らしいですね。

新渡戸稲造没後80周年

昨年は、新渡戸稲造生誕150周年でしたが、今年は没後80周年に当たります。新渡戸稲造は、1933年、太平洋戦争開戦の直前に、米国とカナダに、国際協調を基調とした講演に出かけるのですが、9月11日に、カナダのブリティッシュ・コロンビア州のビクトリアで病を得て、同市のジュビリー病院に入院。恐らく重症の急性膵炎の経過のようですが、治療の甲斐なく、10月16日に客死しています。日本が国際社会からの孤立を深める時期で、「われ、太平洋をかける橋とならん」という志を貫いた稲造の、やむにやまれぬ気持ちを感じられます。体調も万全はない中での過密なスケジュールを、こなしておられた中での出来事のようなのです。

新渡戸稲造は、世のため、人のためとなると、自分のことは全く顧みない人だったようです。自分のことに無頓着であるということは、思うに非常に高貴な生き方であって、凡人は自分の都合で物事を判断します。せいぜい、自分の研鑽のためといった具合に、自分中心で考えてしまいがちです。この稲造の、自分に無頓着な生き方を見るにつけ、彼が後進に、常々言っていた、「to do よりも to be」、何かをなすことよりも、いかにあるかという事が大切、という言葉と相俟って、彼の人格に触れる気がします。

ジュビリー病院（Royal Jubilee Hospital）には、稲造の事績を偲んで、新渡戸稲造庭園というものが造られていて、新渡戸稲造を私淑される方の聖地の一つとなっているようです。たまたま、先日、樋野興夫先生が彼の地を訪れられて新渡戸稲造庭園の写真を送っていただきました。

インターネットで調べると、このような立派な庭園を造るだけあって、広大な規模を持つ大病院のようでした。しかし、国内ならいざ知らず、海外で、このような庭園を造って事績を偲ばれている日本人は、中々いないのではないのでしょうか。カナダの方の志にも、本当に驚かされます。

東日本大震災の際にも、台湾から大変な額の義捐金が送られて来ましたが、日本人にはその底流にある気持ちは理解されていないのではないかと思います。台湾は、日本の植民地であったのも事実ですが、その当時に、児玉源太郎、後藤新平、新渡戸稲造という、日本でも屈指の開明派が、両国民の間の宥和と、経済的な自立に心を砕いたのも事実であって、日本に親近感をもって下さった方も多く、それが21世紀になっても、困った時には義捐金を送ってもらえるような形となって、返ってきているのですね。

盛岡駅の駅前に、新渡戸稲造の銅像が出来ましたが、これも台湾の方の志で建てられていることを、我々は決して疎かにしてはならないと思います。是非、盛岡駅に行かれた際には、滝の横にありますので、見てみてください。



Royal Jubilee Hospital



ジュビリー病院の新渡戸庭園での樋野興夫氏

第11回日本臨床腫瘍学会に参加して

先日、仙台市で行われた、日本臨床腫瘍学会に参加して来ました。今回は、ワークショップ5「がん化学療法の質向上のための社会ネットワーク構築」というセッションで、がん哲学外来、メディカル・カフェに関して発表してきました。非常に聴衆の関心の高いセッションで、パネーシャント・アドボケート・プログラムにも指定されていたため、市民の方も会場に来ておられました。

通常の口演より、時間は長めに設定されていましたが、それでも討論も含めて20分ぐらいということなので、十分にお話しできたわけではありません。しかし、これまで全国学会での発表テーマとなったことはないものでもあり、意義はあったと思っています。がんサロンや、ピア・サポートなども、今後、さらなる整備が必要な課題として共通認識されていますが、がん哲学外来や、メディカル・カフェは、市民と医療者が共同で作りに上げていくものでもあり、柔軟に対応できるモデルでもあります。現時点でも急速に数が増えているのですが、さらなるニーズが大きいと思います。

福田医師は、膵臓癌の放射線化学療法に関する報告を行い、昨年在籍した伊藤医師は、リンチ症候群に関する発表をしました。

当日は、仙台は物凄く暑く感じましたが、仙台に住んでいればこの程度は普通なのかもしれません10月には、第3回がん哲学外来コーディネーター養成講座が、長野県佐久市で開催されますが、こちらは気候も良さそうですし、全国からアクティブな方々が大勢集まる会でもあり、こちらもお勧めしたいと思います。



本を読むのは好きだけれど...

基本的に、本を読むのは好きなのですが、最近、本を書くことも増えています。書くと言っても、分担執筆ということなのですが、分担執筆に際には、担当する部分がある時々で異なるので、大腸がんの化学療法について書いたり、肝胆膵の化学療法について書いたり、副作用について書いたり、まちまちです。まったく、関係の無い領域の分担執筆をする訳ではありませんが、意外と大変な作業でもあります。

今度、がん哲学外来コーディネーターという本も出る予定になっていて、これは、世の中に類似の本はないというものなので、手元に届くのを楽しみにしています。

「がん哲学外来を静思する」という内容のものを、そのうち書こうかなあと思っていますが、その前に、がん哲学外来 メディカル・カフェの小冊子を作成する予定にしています。現在、地道にその作業を行っているところです。



MEMO

9月のがん化学療法科の予定

9月13日	柴田教授外来
9月16日	敬老の日
9月19日	中秋の名月
9月20日	新渡戸稲造祈念 メディカル・カフェ
9月23日	秋分の日
9月27日	柴田教授外来

